

健康

肺がんで脳への転移は

質問
40代女性です。父が肺がんになり、治療を受けることになりました。肺がんは脳に転移することがあると聞きました。どのような症状に注意しておけばよいでしょうか？



中島 公平
徳島大学病院
脳神経外科講師

回答

頭蓋内に発生する腫瘍の中で、脳以外で発生したがなが血流を介して脳に転移したものを転移性脳腫瘍と言います。脳腫瘍の約16%を占めるとされていますが、近年、高齢化やMRIなどの検査技術の向上により発見されることが多くなり増加傾向にあります。

転移性脳腫瘍を引き起こす原因となるがんは肺がんが最も多く(46・1%)、次いで乳がん(14・5%)、大腸がん(6・0%)、腎がん(4・2%)となります。症状はさまざまで腫瘍の大きさや発生部位によって異なります。

非常に小さい腫瘍は検査の中で偶然、発見されることもあります。逆に、腫瘍が大きい場合には腫瘍の周囲が腫れ(脳浮腫)

短期間で進行 早めの検査を



がん何でもクイズ

がん予防のためには、五つの健康的な生活習慣(1、禁煙 2、節酒 3、食生活 4、〇〇〇〇 5、適正体重の維持)の実践が重要です。〇〇〇〇は何ですか。
①身体活動②経済活動③温泉巡り

行こうよ！がん検診

腫)、頭蓋内の圧力が高まることで生じる頭痛や嘔吐、意識障害といった重篤な症状で見つかることがあります。

初期症状として最も多いのは脳の機能が阻害されることで生じる身体的な症状です。脳は場所によって担っている機能が異なります。脳腫瘍の発

生部位によりその機能が障害され、発症します。

前頭葉では手足の脱力(片まじ)や言葉が出てこない(運動性失語)、判断力低下などの症状が見られ、側頭葉では言葉が理解できない(感覚性失語)、幻聴、幻臭などが、頭頂葉では半身の感覚障害や計算ができない、左右が分からない

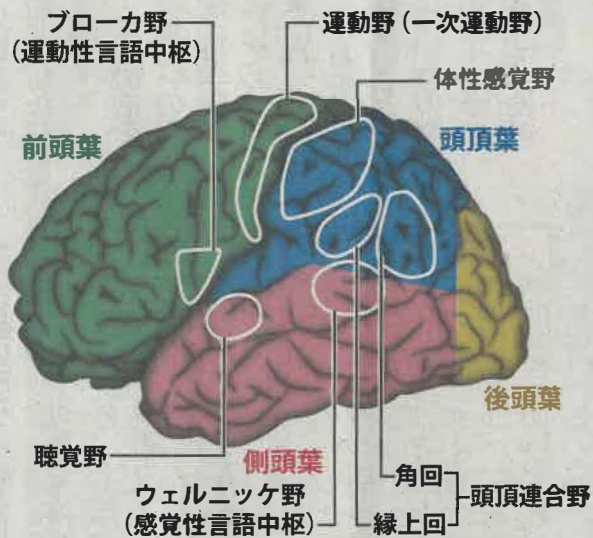
どの症状が、後頭葉では視野の欠損、小脳では歩行時のふらつきや目まいなどが現れます。

このように発生部位により、日常生活に支障をきたすさまざまな症状が見られます。

転移性脳腫瘍に対する治療法は、放射線治療や外科的治療、化学療法、浮腫や痛みに対する治療などの保存的治療があります。治療法の選択は患者の年齢や全身状態、原発巣の状態などを総合的に判断して決定します。

病変が小さく複数の箇所にある場合には放射線治療を行うことが多く、病変が3つ以上あり単発で全身状態が良好な場合には全身麻酔下で開頭し腫瘍摘出する外科治療が選択されます。

症状は短期間で進行することがあるため、前述のような症状や気になる点があった場合には主治医に相談して早めにCTやMRIといった画像検査を行うことを勧めます。



部位により症状さまざま